

はくぶつかんの 部屋 3 ～人類の足あとをたどる!～

宜野湾市立博物館で開催中の企画展「人類の足あと展」は、ご覧になりましたか？今回企画展は、人類の進化をテーマに、猿人・原人・旧人・新人の骨を一堂に展示し、人類進化の歴史を分かりやすく学ぶことができます。また、沖縄県内はもちろん、宜野湾市で発見された大山洞人、安座間原人（真志喜）、奥間人（宇地泊）関連の資料も展示しております。

ところで皆さんは、沖縄が「化石の宝庫」と言われていることをご存知ですか？

日本本土の土壌は、火山灰で覆われているため酸性土壌で、土の中にはある骨を溶かしてしまいます。一方、沖縄の土壌は、琉球石灰岩が広く分布し、カルシウムが多く含まれていることから、骨が溶けずに化石になりやすい特徴があります。

日本では、旧石器時代の化石人骨が10カ所で確認されていますが、静岡県の浜北人以外の9カ所は沖縄で発見されているんですよ！例えば、約3万2千年前の山下町第一洞人（那覇市）、約1万8千年前の港川人（八重瀬町）、最近約2万年前であることがわかった白保竿根田原人（石垣市）

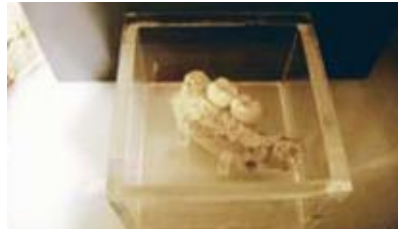
などがあります。なかでも、白保竿根田原人は、骨についていたコラーゲンから、直接年代を測定することができた日本最古の人骨として注目を集めています。また、「人類の足あと展」では、この年代測定に使われたコラーゲンも展示しています。

人類の進化については、中学校の歴史の授業でも勉強することになっていますが、

教科書にある化石人骨のレプリカを多く展示し、人類進化の様子がわかりやすく展示されています。夏休みにご家族で足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲港川人の頭骨（レプリカ）



▲後期更新世の後期の大山洞人の下顎骨（レプリカ）

■夏休み企画展「人類の足あと展」
会期：7月13日（水）～8月28日（日）

お問い合わせ
市立博物館 ☎870-9317

茶 ぐわーゆんたく 88

パブリックアート再発見

皆さんは「宜野湾市民会館」を訪れた事がありますか？宜野湾市民ならば、一度は足を運んだことのある場所ではないでしょうか。それでは、市民会館の入口から入ってすぐ正面にあるレリーフのことはご存知でしょうか？こちらは注意して見ないと意外と気づかないかもしれません。

大氏がデザインした緞帳も大ホールで見ることが出来ます。視点をほんの少し変えることで、今見ている風景は180度違って見えることがあります。普段見慣れた風景の中に溶け込んでいる宜野湾市のパブリックアートを、今一度再発見してみたいかがでしょうか。

このレリーフは「ナビイの恋」のポスター等で知られる木版画家名嘉睦稔氏の作品です。この作品は宜野湾市民会館が開館した翌年の1983（昭和58）年5月に完成し、縦8メートル、横21メートル、当時県内最大級のレリーフとして『市報ぎのわん』

※①『市報ぎのわん』1983年6月号（第254号）に掲載。

（※①）や新聞にも紹介されています。

「榕樹（ガジュマル）」と題されるこのレリーフは、さん然と輝く太陽の下で羽ばたく鳥、ガジュマルを中心に舞い踊る美童とクバ笠の男達。それを眺めるキジムナーといった沖縄のモチーフを表情豊かに表現しています。

当時、名嘉氏は20代。現在の木版画の作風に見られるような生命力の強さや躍動感、沖縄らしさといったスタイルをこの作品において垣間見ることが出来ます。

また、宜野湾市民会館ではこのレリーフの他にも、当時大山在住であった與那朝朝



▲名嘉睦稔氏原画によるレリーフ（宜野湾市民会館内）

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会文化課 ☎8933-4430